

川でむすぶ

新年のご挨拶

活動報告

- 報告1：26時間水質調査（梵天川編）報告
- 報告2：第1回夏井川かわくだり報告
- 報告3：全国河川愛護団体交流会 in 三重県桑名報告
- 報告4：秋の夏井川沿いウォーキング
- 報告5：「川ばた会議」 in こまち交流館

行事案内

- いわき地域環境科学会「第26回発表会」



謹 賀 新 年

世話人一同



明けましておめでとうございます。会員の皆様には、良き新年をお迎えのことと存じます。日頃よりのご支援、ご協力に感謝申し上げます。

お陰様で、当会の活動も順調に進めることができております。従来から実施している事業の他に、一般参加を呼び掛けての「夏井川川くだり」や「夏井川沿いウォーキング」等の新規事業にも取り組み、活動の幅を広げることができました。

本年は、夏井川流域全体を視野に置いて活動している「夏井川流域の会」との連携事業も強化しつつ、新たな発展に向けて大きく飛躍できますよう頑張っていきたいと思いますので、引き続きのご支援よろしくお願い致します。

26時間水質調査（梵天川編）

阿部 孝男

26時間水質調査も今年で7回目となりました。

今まで調査した河川は **H20-好間川**、**H21-新川**、**H22-茨原川**、**H23-夏井川**、**H24-宮川**、**H25-山王田川**、の6河川です。

今年梵天川で行うことになった経緯は、毎年6月に実施している一斉水質調査時にほぼ源流に近い梵天川の水質調査結果が気になっていた（あまり良くない・・・）こともあり、数年前からの懸案事項となっていました。

とはいえ、滝根地区で調査を実施するのは当会だけではなかなか困難でしたが、今年は「夏井川流域の会」の連携を発揮し、調査地点の選定や調査会場の手配など高橋宗彦会長をはじめ、上流域の方々の協力を得て実施にこぎつけました。

10月3日（金）～4日（土）、分析場所の滝根町商工会館を拠点に、採水定点を決めて日中と夜間を交代で、定点①（下流端）は1時間ごと、定点②（上流端）は1時間置きに行い、現地で水位と水温を計測し、採水した水はパックテスト・導電率・透視度・臭いなどを分析し記録していきました。



調査地点



室内分析の様子



夜間の採水の様子

私は1日目の夜からの参加でしたが、今年は地域のみなさんの協力もあって参加人数が多かったため、採水や分析・記録は交代で余裕があったような気がします。（1日目の昼間は？ですが）

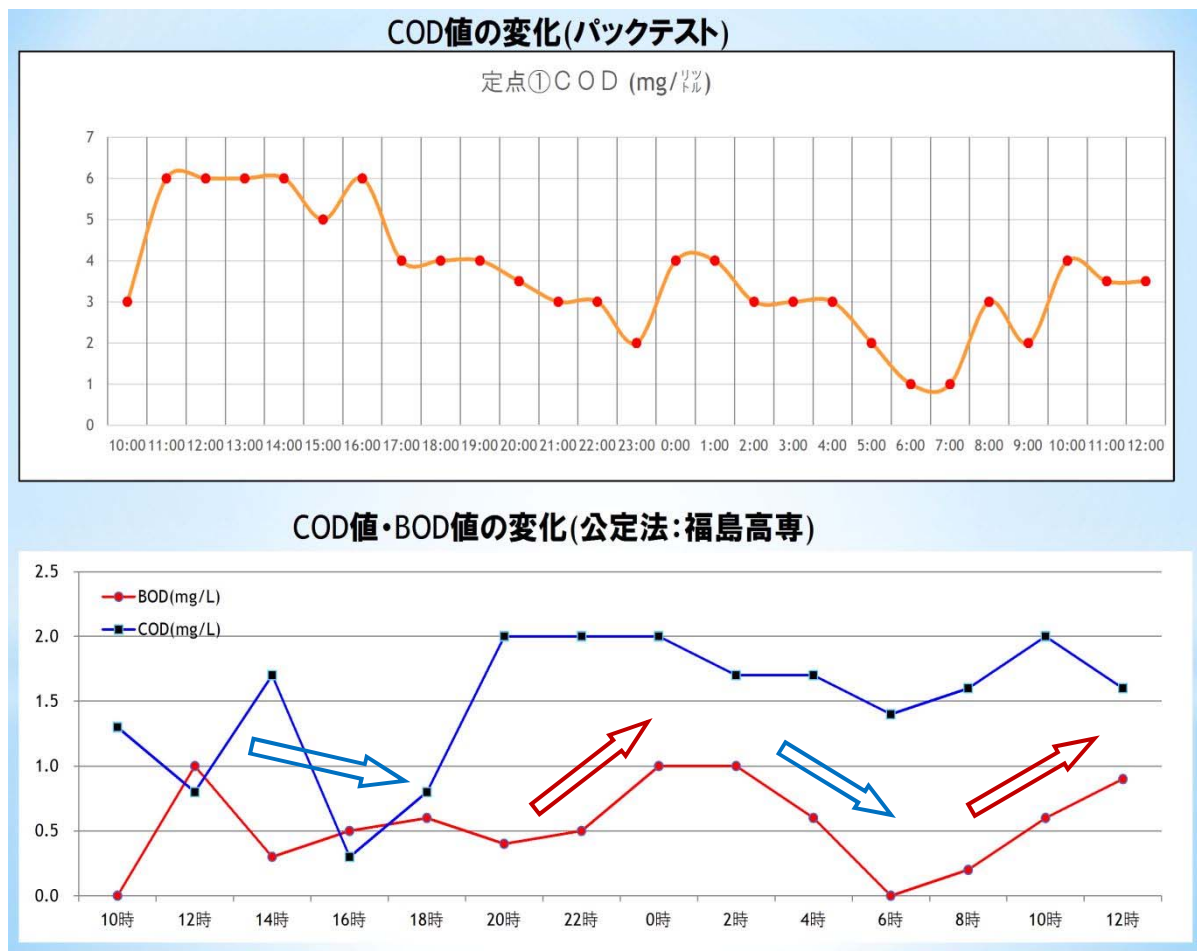
交代時間や待機時には歓談や井上さん指導のガラス細工づくりに熱中するなど方もおり、いつも通り訪れる明け方の睡魔はいつも通り井上さんと木田さんが吹き飛ばしてくれ、最後まで持ちこたえ楽しく終えることができました。

調査は現地だけでなく、採水検体を福島高専へ持ち込み公定法での分析を行いました。

結果は以下に示したとおり、集落下流（定点①）の水質の変化は人々の生活様態を顕著に表すものであると言える結果でした。

即ち、家庭からの排水（炊事や洗濯など）が多い朝と夕方後遅れて水質が悪くなり、その後改善傾向が見られるものの、再度排水の影響により数値が上昇する傾向にあります。

（※特に公定法BOD値に着目）



この貴重な結果データをなんとか地域のみなさんに知ってもらい、これからの河川環境や水質について考え、できれば地域の方々にも参加してもらいたいものです。

今回は全員で25人のみなさんに参加協力頂きました。みなさん大変お疲れ様でした。



最後に残った皆さんで！

※過去の26時間水質調査記録を見たい方は事務局まで申し出ください。

第1回夏井川かわくだり報告

田中博文

平成26年10月12日（日）いわき市平鎌田の親水公園にてかわくだりを行いました。

昨年も計画していましたが、台風増水により中止となり、今年晴れて第1回を開催できました。県・市の後援を頂き、駐車場は東日本国際大学の協力を得て確保でき、上流・中流の会員の皆様、一般参加者を含めて総勢40名ほどの参加となりました。

鎌田親水公園から新川合流部まで約1.8kmの区間で、本番前に親水公園スタート地点でカヌーの練習を行い、カヌー一人乗り・二人乗り、ゴムボート、カヤックに分乗してゴール地点まで川の流れを楽しみました。午前中に1回目くだり、昼食休憩後に、2回目くだりの前には匂いと色で当てる「きき水」、各自独創的な「笹舟流し」も行いました。

多くの方にご協力いただき、無事成功しました。反省点としては、東日本国際大学の学生も含めてより多くの一般参加者が参加できるよう広報すること、晴天とはいえ少々寒かったこと、放射線測定に時間かかったことなどがありましたが、来年第2回にはよりよく改善していきたいと思っています。本当に有難うございました。

開会式

ながれの様子

途中見張り



ながれの様子

笹舟づくり

全員で



福島民報 10月16日

全国河川愛護団体交流会 in 三重県桑名報告

佐藤 雅子

平成13年から始まった河川愛護団体交流会の第14回目は、平成26年11月8、9日、三重県桑名市で開催されました。福島県から11人が参加、いつもバラエティーに富んだメンバーで、とくに現在は福島県の2011/3/11以来の現状を全国の人々に伝えるのに心強い遠征となっています。

到着後、桑名“はまぐりプラザ”で名物「焼きハマグリ」の昼食をいただいてから、交流会に入り、桑名市赤須賀漁協代表理事組合長の秋田清音^{あきたすずね}さんの講演から始まりました。

秋田さんは桑名の^{はまぐり}蛤復活のレジェント（伝説の人）で、木曾三川河口の漁師町赤須賀（伊勢湾最奥の汽水域干潟）で、戦後の高度経済成長時に、相次いで行われた埋め立てや防潮堤の建設などによって多くの干潟が失われ、ハマグリが絶滅危機にあったのを、仲間とともに昭和50年ごろから種苗生産技術開発に取り組み、見事「その手は桑名の蛤」の回復に導いた方です。そういえば、前回（平成17年）は2cmぐらいだったのに、今日お昼に頂いたハマグリは、6cmほどありました。秋田さんたちの努力で大きくなったハマグリを私は味わったのです。天然ハマグリ of 繁殖が見えるようになって、子どもたちが漁業に関心を持ち、“はまぐりプラザ”を訪れるようになったそうです。



はまぐりプラザの「焼きハマグリ」



講演会・事例発表会



秋田清音さんの講演

秋田さんは、豊かな生物を育む環境を未来の人々に受け渡すにはどうしたらよいか、共通認識を持とうと結びました。そして、ご自分の人生を語り、成長を育んでくれたのはこの桑名の郷土、風土、人々だと感謝を述べました。

会場には感涙の方も大勢おられ、秋田さんを称賛したのです。

秋田さんは中原中也の詩「桑名の駅」を最後に紹介してくださいました。この詩は中也が「すべてをもう一度やり直す」希望の旅の途中の一光景を歌ったものです。

事例発表は新潟、山梨、山口、三重の各県の代表が登壇しました。わが夏井川流域の会は、阿部孝男さんが水質調査や川下り、それに、毎日の放射線量数値地図がテレビで放映される様を示しました。



懇親会の前に参加者のみなさんで

次の日は、桑名市街を、船で城下町の運河、堀を回り、桑名城跡九華公園を歩いて歴史を知り紅葉をたのしみました。思いがけず、伊勢神宮の「一の鳥居」を20年に一度の遷宮でここ江戸時代の東海道「七里の渡し」跡に建て替えられる、「皇大神宮一ノ鳥居御下賜、お木曳き」行事に出くわしたときは、次の日行くことになっている伊勢神宮参拝に想い一入でした。

木曽三川とは木曽川、長良川、揖斐川です。ゼロメートル地帯の地理条件や気象条件が、過去にも自然災害で大きな被害が出ています。伊勢湾台風（昭和34年9月26日）記念館は、河川防災ステーションのシンボルとして建設されました。延床面積276㎡、軽量鉄骨3階建ての展望階に立った時、東日本大震災津波被害を見ている私は、広大な湾岸長島の地の足下が揺らぐように思いました。

三川が並ぶ複雑な地形は、岐阜県、愛知県、三重県の3県が隣り合っていることで、さらに難しい問題があるようですが、地球温暖化などによる自然環境変化がもたらす大規模災害は、日本に及ばず、世界のどこで、いつ起こるかかわからない時代になりました。木曽三川を見て、改めて全国河川愛護団体交流会の意義があったと感じました。

今回主催して下さった桑名のみなさん、村上さん、ご一家総出の平井さん、他ご尽力いただいたみなさまに感謝します。

オプションの夜のコース町歩きや、伊勢神宮参拝でも、たいへん有意義なことばかりでした。来年は新潟です。歩かないと見えないものがあります。みなさん、ご参加ください。

私たちの河川活動は、人生を考えることと、桑名の秋田さんの講演で学びました。



偶然出会ったお木曳き



河川防災ステーション視察



伊勢神宮にて

秋の夏井川沿いウォーキング

木田 都城子

11月15日「秋の夏井川沿いウォーキング」が開催されました。参加者13名はいわき駅8時41分発のJR磐越東線を利用し、9時10分に川前駅到着。「夏井川をきれいにしてみま専科」の中山さんご夫妻と地域の方々が甘酒で心も体も温くなる出迎えをして下さいました。

古民家「永山邸」では豪商の歴史を感じる建物や水を利用した庭園を散策、鹿又川との合流点や夏井川がよく見える場所では流速や岩肌、砂礫の堆積などを観察し、夏井川渓谷では紅葉のしくみや樹種による紅葉・黄葉の違いなどを私から説明させていただきました。また昭和10年に発生した脱線・転覆事故現場にある遭難碑では付近に設置されているロック・シェッド(覆道)という落石や土砂崩れから磐越東線を守っている構造物、いわや旅館さんでは魚種に応じた生息域の水質を再現したヤマメやイワナ、ニジマスの養殖場なども見学できました。

風光明媚な展望台での昼食では中山さんご夫妻からおいしい豚汁の差し入れをいただき、箆場の滝では語り部としてご活躍なさっている井上久美子様より竜宮伝説を拝聴し、背戸峨廊近くでは陶芸などのギャラリーや物産市を見学、江田集会所前の親水施設では夏井川の水に触れ、JR江田信号所前発14時32分の列車まで五感がよるこぶ時間を過ごしました。

「誰でも気軽に参加できるように」との思いから開催された本会初のウォーキング。サイクリングや水との旅でなじみのある場所ですが、いつもとは違った目線と速度で周囲を観察しながら歩く貴重な体験となりました。一般参加して下さいました方々、参加した会員の皆さん、おつかれさまでした。また中山さんご夫妻と地域の皆様にこの場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。



中山さんご夫妻
に温かい甘酒と
豚汁をごちそう
になりました。
ありがとうございました。



「川ばた会議」 in こまち交流館

橋本 孝一

平成 26 年 11 月 22 日（土）午後 3 時より、夏井川流域の会主催の「川ばた会議」が小野町こまち交流館が開催されました。事務局より今年度の事業報告（26 時間水質調査、川下り、全国河川愛護団体交流会、夏井川河川清掃 in 川前、他）の後、意見交換がなされました。

川ばた会議の後、第２部として「交流会・懇親会」が持たれました。今回は、当会世話人の２名（木田都城子さん（優秀施工者国土交通大臣顕彰）、橋本孝一（東北経済産業局長賞））の受賞の祝賀会も併せての会となりました。感謝申し上げます。

JRの列車時刻の関係で、午後8時過ぎまで、ゆっくり交流を深めることができました。特に今回は、いわき地区からの参加も含め、福島・郡山からも多くの方々が参加して下さり、有意義な交流会となりました。



~~~~~ ＜行事案内＞ ~~~~~

★いわき地域環境科学会主催の「第26回発表会」が開催されます。

日時：平成27年1月18日（日）13:30～17:00

場所：福島工業高等専門学校 大会議室

本会ならびに夏井川流域の会の活動報告も発表されます。

～～～ 会員の皆様からの御寄稿をお待ちしております。 ～～～

会報 第37号

2015.1. 1

発行：夏井川流域住民による川づくり連絡会

事務局：〒970-8017 いわき市石森2丁目9-17 永井 精  
Tel.0246-88-7338